

スポーツ振興事業助成金「競技大会助成事業」実施報告

助成事業の実施結果及び助成金の使途に関する情報(令和6年度・2024年度)

○助成対象事業

競技大会名 「FISジャンプワールドカップ2025札幌大会」
期 日 令和7年2月15日(土)～16日(日) (男子個人戦2戦)
会 場 札幌市 大倉山ジャンプ競技場

種 目: 2月15日(土) ラージヒル(HS137) 個人戦(15:10 競技開始 ナイトゲーム)
2月16日(日) ラージヒル(HS137) 個人戦(11:00 競技開始)

参加選手数: 57名 外国選手 46名(その他海外役員・各国コーチ数 64名)
日本選手 10名(クォーター6名+開催国枠4名) 参加国数17か国

(令和6年度のスポーツ振興助成金「競技大会助成事業」は、1980年より札幌で開催している男子ジャンプワールドカップ札幌大会の開催にご支援ご協力をお願いし実施した。)

1980年から始まった国際スキー・スノーボード連盟主催のジャンプワールドカップは、世界トップクラスの選手が多数参戦し、年間王者を決定するジャンプ大会であり、札幌において40年以上の歴史を重ね、継続的に開催してきた国際競技大会である。

今季は2戦を開催、2月13日、日本選手を含む選手団が札幌に到着、開催国枠の日本選手10名を含む56名がエントリー、2月14日(金)の公式練習及び予選ラウンドに出場、翌15日(土)に予選通過した50名による第1戦を実施した。北京五輪金メダリストの小林陵侑選手を擁する日本チームは、世界各国の選手と熱戦を繰り広げた。

今大会も公式練習及び予選ラウンドに大ベテランの葛西紀明選手が出場し、本選進出50名に入ることには期待を寄せて報道並びに観客の注目を集めたが、進出はならなかった。

第1戦目、曇り空追い風が吹く大倉山の競技は、小林陵侑選手が1本目137mで首位に立ち、2本目飛距離136.5mと2本のビッグジャンプを揃えて、逆転を許さず優勝を果たした。

翌日2月16日(日)、第2戦の天候は曇り空、緩やかに風が吹く中で行われ、ノルウェー勢が1本目に飛距離を伸ばして折り返し、2位につけた小林陵侑選手はプレッシャーをかけられながらも2本目に飛距離を伸ばし、飛型点でも高得点で逆転優勝を飾り、大いに観衆を喜ばせていた。

今後の課題としては、来季のオリンピックに向けて特定選手のみ成績を残す状況を改善し、上位に食い込むことが出来る選手の育成強化が急務であり、その上で付随する「団体戦」において海外チームと互角に渡り合う“強さ”を再び取り戻すため、若手選手の奮起にも期待したい。

選手・競技役員・大会役員ほか来場された方のご協力により、本大会を無事開催出来たことを報告し、関係各位に深く感謝いたします。

【助成金の使途】

下記の助成対象経費の一部に充当 競技会開催／助成金額 7,266,000円
借料及び損料(会場設営機材等)、雑役務費(競技場整備・警備等)

FIS Ski Jumping World Cup
2025 Sapporo
Fri 14. February. 2025





FIS Ski Jumping World Cup
2025 Sapporo
Sat 15. February. 2025



FIS Ski Jumping World Cup
2025 Sapporo
Sun 16.February.2025



FIS Ski Jumping World Cup
2025 Sapporo
Sun 16.February.2025

